

「ICTの変革が実現するヘルスケア・新時代」～2025年大阪万博：世界に向けて発信すべきライフィノベーション、未来社会の姿とは何か?～」セミナー開催報告

2018年12月12日水曜日、「2025年大阪万博：世界に向けて発信すべきライフィノベーション、未来社会の姿とは何か?」をテーマに、リサーチコンプレックス推進プログラム人材育成セミナー「ICTの変革が実現するヘルスケア・新時代」第2日目のセミナーが行われました。このセミナーは、殿町リサーチコンプレックス推進プログラム(中核機関/慶應義塾大学)が主催し、世界経済会議第四次産業革命センター日本支部、国立研究開発法人国立国際医療研究センター、グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)との協力で開催されました。

セミナーでは、大阪万博の基本構想委員を務めている宮田教授より、万博のメインテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」、また、サブテーマである「多様で心身ともに健康な生き方」と「持続可能な社会・経済システム」に基づいて、期待される未来社会や万博構想の最新動向について解説していただきました。次に、未来社会や世界に向けてどのような構想で開催地である大阪が変化していくのか、株式会社大林組大阪本店建築事業部プロジェクト推進第一部の部長である船橋俊一氏により、大阪万博のポイント、梅北における緑、文化、経済が融合した都市・経済・社会開発、ウェルネスシティという未来都市構想について解説をしていただきました。そして、エストニアからはタリン工科大学の Madis Tiik 博士をお迎えし、電子立国に至るまでの経緯、ehealthにおけるオーナーシップとデータポータビリティの権利、グローバルな取り組みの中での課題や論点についてお話をしていただきました。2025年の大阪万博にむけて、世界に向けて発信される新しい健康のスタイル、未来社会とデジタルヘルスの展望について学ぶ、貴重なセミナーとなりました。

